

Osseodensification

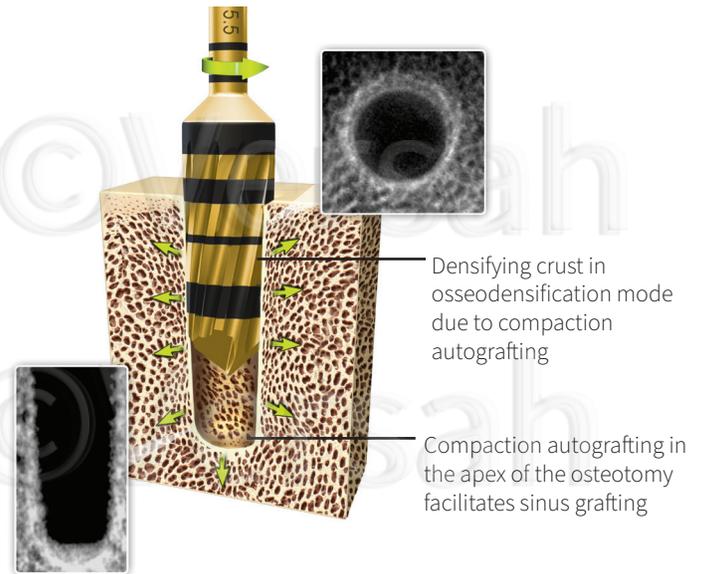
Crestal Sinus Lift
Protocol I

頂部サイナスリフトプロトコル I

残存骨の最小高さ ≥ 6 mm 必要な最小歯槽幅 = 4 mm

概要: デンサーバーをステップごとに使用します。例: 2.0 mm、3.0 mm、4.0 mm、5.0 mm

- 上顎洞底までの骨の高さを測定
- 上顎洞底の1MM下にパイロットドリルを挿入
- デンサーバー (2.0) をODモードで上顎洞底まで使用
- デンサーバー (3.0) をODモードで上顎洞底を3MM超えるまで挿入
- 必要に応じて、デンサーバー (4.0)、(5.0) をODモードで上顎洞底を3MM超えるまで使用
- デンサーバーをステップごとに使用します。例: 2.0 MM、3.0 MM、4.0 MM、5.0 MM



ステップ1:



ステップ1:

上顎洞底までの骨の高さを測定します。
通常使用される器具と技術を使用して
軟組織をフラップします。

ステップ2:

上顎洞底の1mm下にパイロットドリルを挿入します。
後方の残存歯槽骨の高さが6.0mm以上で、追加の垂直深さが必要な場合、上顎洞底から1.0mmの安全ゾーン内でドリルを使用し、灌流を伴う時計回りのドリル速度800-1500rpmで掘削します。パイロットドリルの位置をX線で確認します。

ステップ2:



ステップ3:



ステップ3:

デンサーバー (2.0) をODモードで上顎洞底まで使用します。 部位に選択されたインプラントの種類や直径に応じて、最も細いデンサーバー (2.0) から始めます。手術モーターを逆回転デンシファイモードに変更します (灌流を伴う逆回転、ドリル速度800-1500rpm)。バをオステオミーに挿入し始めます。バが上顎洞底の密な部分に到達する触覚フィードバックを感じたら停止し、最初のデンサーバーの垂直位置をX線で確認します。

ステップ4:



ステップ4:

デンサーバー (3.0) をODモードで上顎洞底を3mm超えるまで挿入します。次に広いデンサーバー (3.0) をデンシファイモードで使用し、灌流を伴う逆回転 (ドリル速度800-1500rpm) で圧力を調整しながらポンピング動作を行い、既に作成されたオステオミーに進めます。バが上顎洞底に到達する触覚フィードバックを感じたら、穏やかなポンピング動作で圧力を調整し、1mm刻みで上顎洞底を超えて進行します。**各段階で上顎洞底を超える最大の進行可能距離は3mmを超えてはなりません。**次に広いデンサーバーがオステオミー内で進むにつれて、追加の自家骨が根尖部に押し進められ、追加の垂直深さと最大膜リフト3.0mmが達成されます。バの垂直位置をX線で確認します。

ステップ5:



ステップ5:

インプラントを埋入します。インプラントをオステオミーに挿入します。手術モーターを使用してインプラントを埋入する場合、設置トルクの最大値に達するとユニットが停止することがあります。トルク表示ラチェットレンチを使用してインプラントを深さまで手で埋入します。

詳細については、versahinternational.com/od-published-papers/をご覧ください。

臨床医の判断と経験は、この臨床実践提案プロトコルと共に適用されるべきです。